キーパーソン

社会医療法人・天神会　古賀伸彦理事長（67）

医療と介護「切れ目ないケア」を

「天神会」は病院、診療所、有料老人ホームの計6施設を運営しています。医療法人の中でも公益性が高い「社会医療法人」になっています。今後、中核施設の「新古賀病院」（久留米市天神町）と「古賀病院21」（同市宮ノ陣）について、その特長を一層強化していこうと計画しています。

新古賀病院は、緊急性が高い患者に医療を提供する急性期病院で、特に循環器科に強みを発揮しています。救急医療も「24時間365日」の受け入れ態勢を構築しており、救急搬送の受け入れは年間3千件以上です。2年後には病棟を増築し、救急外来の態勢をさらに充実させ、ＩＣＵ（集中治療室）、ＨＣＵ（高度治療室）も増床したいと考えています。

一方、古賀病院21はがん治療や整形外科で高い評価を得ています。昨年4月には病院近くに、クリニックや訪問介護ステーションなどを併設した住宅型有料老人ホーム「こがケアアベニュー」（全75室）を開設しました。

来年、新たな介護老人保健施設を古賀病院21に併設します。60の居室と、20床のショートステイ、14床の緩和ケアセンターを備えます。

こうした取り組みにより、急性期医療からリハビリ、介護に至るまで切れ目ないケアを提供していきたいと考えています。社会医療法人として、高齢化社会に対応しなければなりません。

× × ×

父、一雄が天神会の礎となる古賀医院を久留米市内に開設したのは、終戦間もない昭和21年です。X線検査装置をいち早く導入するなど、先端医療への関心が高く、先見の明もありました。父の姿を見て育った私も、自然と医師を志しました。

「患者さんにとって最高の医療を」。こんな思いから、最新の医療機器を導入してきました。

例えば、新古賀病院で平成19年、冠動脈ＣＴ画像と心機能を確認する「心筋シンチ画像」との融合立体画像診断を始め、心筋梗塞予防に活用してきました。これは、全国初の取り組みです。

古賀病院21では、20年に開設した放射線治療センターで、がん病巣に放射線を照射し、前立腺がんなどを切らずに治す「トモセラピー」を、関西以西の西日本で2番目に導入。治療症例は現在までに1千件を超え、全国トップクラスです。

今年1月には、最新鋭の内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」も導入しました。

こうして高度医療の道を突き進んできたわけですが、それだけでは不十分です。医療に関わる人間が強く意識しなければならないのは、患者さんの心を和らげることでしょう。

私は「良心的自己満足医療からの脱却」「本音で語り合える文化」といったフィロソフィー（哲学）を示しました。各職場ではこれを基に、朝礼などの場で朗読したり、職員同士が体験談を語り合い、患者さんに対するホスピタリティを磨いています。天神会は、患者さんの気持ちを幅広く考慮する「全人的医療」の実践を目指しているのです。

× × ×

24年4月、天神会は福岡県知事から「社会医療法人」の認定を受けました。救急、僻地など公益性の高い医療を担う責任が、以前にも増して大きくなったと言えます。

この責任を果たそうと、24年12月には八女市南部の山間部、辺春地区に診療所を開設しました。これまで無医地区で、住民約700人が診療所開設を求める署名を八女市に提出。市が診療所を募集したことを受け、僻地医療に貢献しようと、手をあげたのです。

正直言って、経営的には厳しい。しかし、住民の方々からは「これで安心して住める」と喜んでいただいています。住民を対象とした健康増進教室もすでに3回開き、好評を得ていますね。

これからも地域医療への貢献を果たしていきます。同時に、医療の進歩を取り入れた最高の医療を目指す姿勢も持ち続けたいと思います。

（田中一世）

昭和21年4月、古賀伸彦理事長の父、一雄氏が開設した内科医院がルーツ。平成4年6月、医療法人「天神会」を設立し、24年4月、社会医療法人となった。新古賀病院、古賀病院21、新古賀クリニック、野伏間クリニック、こがケアアベニュー（いずれも久留米市）と辺春診療所（八女市）の6施設を運営する。